



西合志郷土資料館は、西合志図書館の北隣にあり、東大寺に残る奈良時代の校倉造りの正倉を模した建物です。

合志の歴史を学んでみませんか

～西合志郷土資料館編～

合志市を代表する遺跡である「二子山石器製作遺跡(国指定史跡)」や、弥生(平安時代までの複合遺跡である「八反原遺跡」の竪穴住居跡や円墳などから出土した土器、石器、鉄器などの出土遺物を中心に、古代から近世までの資料を年代順に展示しています。

また色鮮やかな彩色が残る「須屋神社三十六歌仙絵馬(市指定文化財)」も、当館に寄託され展示しているほか、明治25年西合志村黒松に誕生し昭和25年まで続いた私塾「合志義塾」に関連した資料や、近代の生活様式を表すさまざまな民具も展示しており、各時代の様相を学ぶことができます。

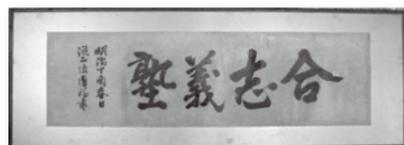
これらの歴史・文化遺産を、見て、触れて、感じてみませんか。



展示品の一部



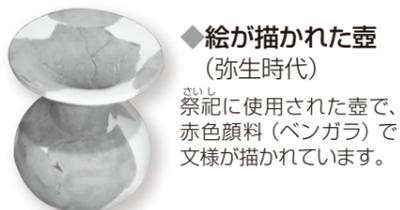
◆**須屋神社三十六歌仙絵馬**
江戸時代後期の肥後細川家の絵師、矢野良勝と衛藤良行により描かれ、和歌は奉納者であり細川藩の側用人竹原勘十郎自ら筆を取っています。



◆**合志義塾扁額**
貴族院副議長などを務めた東久世伯爵により書かれた横額で、校舎内の高い所に掲げられていました。



◆**養蚕関連資料や農具**
明治末期から昭和前期まで盛んであった養蚕業の道具や、田おこしから田植え、収穫、脱穀、精米、保存などに使用された農具を系統的に展示しています。



◆**絵が描かれた壺(弥生時代)**
祭祀に使用された壺で、赤色顔料(ベンガラ)で文様が描かれています。



◆**打製石斧(縄文時代)**
安山岩で作られ、土を掘り起こしたり耕したりする道具です。



◆**土偶(縄文時代)**
祭祀に使用された土偶で、妊娠をした女性の姿と考えられます。

- 入館料 無料
- 開館時間 午前10時～午後5時
- 休館日 毎週月曜日(月曜が祝日の場合はその日後においてその日に最も近い祝日でない日) 毎月月末 年末年始
- 問い合わせ先 ☎242-1190(御代志市民センター)



「合志」という地名が歴史に登場して今年で1300年目になります。その歴史をより深く学び、合志市を誇りに思う子どもたちを育成するため、市内の地名や由来をまとめた絵本「合志1300年の歴史絵本(合志のむかし話)」を市教育委員会が制作しました。

合志1300年の歴史絵本 「合志のむかし話」をつくりました

「合志」という地名ができて1300年！

作者は、須屋の野口チカ子さん。野口さんは、歴史や時代の背景など調べ、古典を分かりやすく伝える講座などを行っています。絵本には、須屋の地名のいわれや、竹迫城伝説など、4つのむかし話が掲載されています。絵は、ルーテル学院中・高校の美術教師の宮本華子さんが描き、また、齋藤合志市郷土・歴史資料館館長にも協力してもらい完成しました。

7月17日には、西合志南小学校で贈呈式を行ない、児童を代表して、5年生の深見春菜さんが、高村教育長から絵本を受け取りました。その後、野口さんが「絵本を読んで、合志はこんな素晴らしいところだと、たくさんの人に伝えてほしい」とあいさつし、絵本の朗読を行ないました。

6年生の相良夕夏さんは、「絵本を読んでみて、タイムマシンののったみたいだった。気になる地名を調べてみたい。また、低学年にも歴史を伝えていきたい」とお礼を述べました。



▲左から、制作にあたった、齋藤合志市郷土・歴史資料館館長、野口チカ子さん、宮本華子さん



▼教育長から絵本を受け取る深見春菜さん

今回、制作した絵本は、市内図書館、市内小・中学校の図書室などに置いていきます。皆さんもぜひ一度、ご覧ください。

●問い合わせ先
学校教育課(西合志庁舎)
☎(242) 1230

今月の表紙



7月10日、竹迫地区(上町・横町・下町)で行なわれた竹迫観音祭。ドランジャーと呼ばれる太鼓を載せた木製の台車を勢いよくぶつけ合うと、観客から大きな歓声が上がりました。その後、観音堂に奉納し五穀豊穰・畜産振興などを祈願しました。

今月の主な話題

- 市基本計画に盛り込まれた市長マニフェストの進捗状況…………… 4
- コメで生活習慣病・糖尿病を予防！合志市で新品種の米を栽培…………… 9
- 血糖値が上がりはじめた人は必見こうし健康塾 血糖コントロール教室…………… 10